

はじめに

過去問を解いていて自分の知らない用語が出てきた時に、それを覚えるべきかどうか悩んだことはありませんか？ **二度と出題されないような用語を捨てるのは空しい**ですね。また逆に、覚えた方が良さそうな用語でも「何をどこまで覚えるのかわからない……」というのは定番の悩み相談です。覚えるポイントを簡潔にはっきり示している解説だったらそんな悩みはないはずなのに！

過去問や模試の解説には、辞書的な説明に陥って「詳しいけれどポイントがぼけている」ものが多々あります。そこにやみくもに蛍光マーカーを引いている受験生を見るといつも哀しくなります。よっぽどその用語についての他の出題例を載せた方が良いでしょうと思いますが、これまたそうした解説にはなかなかお目にかかりません。出題データが蓄積されていないことの証拠に思えてしまいます。

この本はそうした問題をすべてクリアしました。近現代の範囲は『受験生が本当にほしかった問題集 日本近現代史』にDランク用語まで盛り込んでありますが、前近代(古代～近世)についてはそれができていませんでした。それをついに公開したのです。A～Cランクの定番用語は『読むだけ日本史①』でほぼ網羅し、定番問題は『日本史事始』で多く紹介しました。また、わしづかんでゴロで覚える部分は『日本史でどこ攻略法』で書いています。この本では、それらで触れなかった**Dランク用語のすべてとEランク用語の一部を太字で取り上げ、ポイントを明示しながら説明したのです。出題例を並べて問題演習を実体験できるようにもしておきました。**解きにくい問題だけを効率よく抜粋したのです。もっとも後半には大問を丸ごと載せたところもあります。他の小問との合わせ技で解く経験もしてほしかったからです。もちろん**解答に至るまでのプロセス**は丁寧に書きましたから、目からウロコな解法に驚愕することもあるかと思います。実はそこそ僕自身が一番楽しがって書いた部分でもあります。

上記の教材などで基礎固めができたなら、さっそく本書を読んで**太字部分**を覚えてください。**太字はチェックペンで消す**とその用語を覚えたかどうか試せるように設定してあります。『読むだけ日本史①』で赤字になっていないために拾いそびれていそうな用語も太字にしておきました。**細字の説明部分は正誤問題を解く際に必要**となります。読み流したりせず、きちんと理解してください。「そこまで出るのがか……」と驚くこともあるでしょうが、いわゆる用語集よりはずっと少ない情報量です。それどころか用語集に載っていない内容も入っているのに「これだけ」で済むのです。他の余分な情報が入っているお手元の教材と比べればわかるでしょう。遠回りしている余裕はありません。最短コースで受験日を迎えましょう！